

仙台市環境審議会 第2回「杜の都環境プラン」改定検討部会

議事要旨

日時：令和元年9月19日（木）9:00～11:30

場所：仙台市役所本庁舎2階 第四委員会室

I 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系等について

(2) その他

3 閉 会

II 出席委員数

出席 4名

欠席 3名

III 議事要旨

司会	議事に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、永幡部会長にお願いする。
議長（永幡部会長）	初めに、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 会議の公開に関しては、環境審議会の運用にならない、本部会についても、個人のプライバシーに関することなどで、非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしたいと思うので、皆さまよろしく願います。 次に、議事録の署名については、こちらも環境審議会の運用にならない、部会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録とすることとしたい。今回は、五十音順で、風間委員にお願いしたいが、よろしいか。
風間委員	了承した。
議長（永幡部会長）	それでは、議事に入る。 議事（1）次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系等について、事務局より説明をお願いする。
事務局	（資料1及び別紙に基づき説明）

議長（永幡部 会長）	<p>ただいま事務局より、次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系等についての説明があった。本日は、議事がこの1件のみとなっているが、論点を2つに分けて少し時間をかけて議論したいと思う。</p> <p>まず前半は、目指すべき都市像について、事務局の案をたたき台として40分程度を目安に議論をしたいと思う。</p> <p>後半では、都市像を実現するために行政、市民、事業者など、さまざまなステークホルダーがどういうことに取り組んでいくべきかについて、同じく事務局案をたたき台として40分程度を目安に議論したいと思う。</p> <p>それでは、まず、目指すべき都市像について、皆様よりご意見等をお願いする。</p>
青木ユカリ委員	<p>参考資料2として市民アンケートの結果を示していただいたが、設問は事務局が考えたのか。</p>
事務局	<p>今回は、2つの啓発イベントで来場者を対象にアンケートを実施した。</p> <p>資料の表面に示すTBC夏まつりでは、事務局が設問を考えてアンケートを実施した。一方、資料の裏面に示すエコフェスタでは、東北福祉大学の学生たちによるごみ分別のプロジェクトチーム、ワケアップキャンパスと連携してアンケートを実施しており、設問も学生たちに考えてもらった。参考としてTBC夏まつりのようすを学生たちに説明したこともあり、若干似通った設問となっている。</p>
青木ユカリ委員	<p>仙台が環境面で将来どのようなまちになったら良いと思うかという問いに対して、両イベントともに、⑤「みんなが環境のことを考えて行動するまち」と回答した人が多い。将来、多くの人がいろいろと行動している姿を思い描いている結果だと思われるので、環境プランの中で、そういったところにつながるように打ち出していけるとよいと思った。</p>
中静透委員	<p>今回、資料にたたき台として示していただいた、環境都市像のスローガンの言葉は最後に考えてもよいので、むしろその中身として、どういうものを目指すかが大事だと思う。</p> <p>例えば、気候変動によって今回の千葉の台風被害のようなことが起こるということをどれくらい重要に考えているのか、そのために温暖化対策として何をやればよいのか、あるいは、ごみを減らすのはよいが具体的にどれくらい減らすのかなど、2050年でどのくらいになっていけばよいのかということをお我々は考えておかないといけないと思う。</p>
風間聡委員	<p>下から積み上げて考えていくのか、上から考えていくのか、両方のやり方があると思う。</p> <p>参考資料1として、他政令指定都市の環境基本計画の概要を示していただいたが、どの都市も、持続可能とか、自然、豊かな、というように、似たり</p>

	<p>よったりだと感じた。仙台らしさとか、仙台だからやるというようなことを前面に出すことが重要だと思う。事務局から、たたき台として示していただいた「杜の恵み」というのはよくわからなかったが、先ほど青木委員がおっしゃった「行動する」は、いいキャッチフレーズだと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>風間委員にとって、仙台らしさというのは何だと思うか。</p>
風間聡委員	<p>街の中の緑というのは重要なキーワードだと思う。最近落ち葉の処理などが大変で伐採してしまうという話も聞くが、行動としてちゃんと残す、というような意思表示があってもよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>街の中の緑は重要だと思う。環境影響評価審査会の委員をやっていた時にも、居久根を残すことがなかなか難しいという問題があった。その辺もきちんと守れるようにというのは、一つの共通認識になりうるのではないか。</p>
中静透委員	<p>環境都市像の中身の部分はそんなに悪くはないと思うが、「環境と成長の好循環の実現」の「成長」というのが、経済成長のことだけを言っているのであればつまらない。例えば、GDPによる評価だけではなく、以前、東北大で馬奈木教授が研究されていたInclusive Wealth Index（GDPなどの経済発展の指標に加え、持続可能性に焦点を当て、人的資本や自然資本も含めた包括的な富の指標）のような考え方が取り入れられると、仙台らしさにつながるのではないか。</p> <p>また、都市とその周辺とのつながりを上手に打ち出していくことも重要だと思う。仙台市は合併してできたので、流域の奥まで市域が広がっている。そのため、都市部と周辺部をどういうふうにつなげていくか、ということを手前に打ち出すことができると結構ユニークなものになると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>何か具体的なイメージはあるか。</p>
中静透委員	<p>いろいろなことがあてはまると思うが、例えば、街中ではエネルギーを消費しているが、周辺では再生可能エネルギーで発電しており、市全体としてRE100を目指すというようなことが、仙台ならできるかもしれない。</p> <p>また食料に関しても、仙台は基本的な食べ物については自給率がすごく高いというような都市像があってもよいのではないか。そして、都心部で生活する人も周辺部で生活する人も、仕事があって幸せな生活が営まれているというようなことが打ち出せると、新しいのではないか。</p>
議長（永幡部会長）	<p>周辺部というのは、どれぐらいの範囲のイメージか。</p>
中静透委員	<p>ある程度人が住んでいるあたりをイメージしている。さらに西側には国有林が広がっているが、そこはまた別な役割があると思う。</p>

風間聡委員	<p>仙台はすごく範囲が広いので、再生可能エネルギーで市内のエネルギーを回すことを目指すというのは、すごくいいアイデアだと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>現実的に可能なのか。</p>
中静透委員	<p>100%賄うことが可能かどうかはわからないが、そこを目指すことはよいことだと思う。もし市内で足りなければ、周辺の他の市町村とパートナーシップを結ぶというやり方もあると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>青木委員はいかがか。</p>
青木ユカリ委員	<p>先ほどお話のあった「成長」をどう捉えるのかというのは重要だと思う。また、多様な価値観や暮らし方にどのように対応するかということのも大事だと思う。</p> <p>私は市内の西部に住んでいる期間が長いので、周辺部と街中をつなぐという点では、移動するための交通も重要であり、そこには環境の視点も入ってくると思うので、横断的な施策としてつながってくると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>仙台らしい暮らし方というのはすごく重要なキーワードだと思う。仙台らしい暮らし方とはどういうものなのかについて、少し掘り下げる必要があるのかもしれない。</p> <p>私からは、快適環境都市づくりについて申し上げたい。これまでは公害がない状態であればよいというような考え方だったと思うが、もう一歩先に進むことができると考えている。国際的にはヨーロッパが進んでいて、まちの中の静かなスポットをいかに残すかということが真剣に考えられている。単なる騒音対策ではなく、静かな環境や、よい音がする環境を積極的に守ろうというのが施策レベルでも出始めている。以前、環境庁の事業で「残したい日本の音風景100選」というものがあったが、恐らくそこを目指していた事業だと思う。日本では、現在、そういったことを積極的にやっているところは余りないが、仙台だったら十分できると思うので、音に限らず、例えば、木の香りがするなど五感全体で感じられるような、文字どおりの「快適環境都市」を目指したいと考えている。</p> <p>ほかには、自然共生都市づくりについての意見が出ていないが、いかがか。</p>
中静透委員	<p>自然共生都市というのは、自然の保全だけではなく、そこで生きていく人たちのことも考えての話だ。日本に限らず、グローバル的にも、都市への人口集中が起きており、その中で、都市の持続可能性を求めていくためには、もう少し広い意味で自然共生都市というものを考えていく必要がある。都市の中に緑があるだけではなく、農林業等も含めて、それらが上手に機能していくような都市というのが自然共生都市としてあるべきだと思う。</p>

議長（永幡部会長）	そういう意味では、先ほどの都市部と周辺部をつなぐという話で、周辺部をどのような形で生かすのかを見せていく必要があるのかもしれない。
中静透委員	再生可能エネルギーはまさにそうで、昔は郊外部の人たちが薪や炭を生産して、街にエネルギーを売っていたが、今は都市部も郊外部も全てエネルギーを外から買っている。そういうものを見直して、例えば郊外部はエネルギーを生産する場、都市部はそれを使う場というふうになれば、域内で資源や経済が回ることになる。そこまでやらないと、今世紀後半に二酸化炭素排出量をゼロにすることは難しいと思う。
議長（永幡部会長）	ほかに意見がでていないのは資源循環都市づくりだが、いかがか。
中静透委員	資源循環都市づくりに関わる統計データはないのか。
事務局	第1回検討部会の資料2-2杜の都環境プラン基礎データ集のスライド29から34までが、資源循環都市づくりに関わるデータとなっている。
中静透委員	仙台市が、政令市中で何位に位置するというデータはないのか。
事務局（廃棄物企画課長）	ごみの総量やリサイクル率といっても、各都市によって指標が若干異なっており、単純に比較ができない。
中静透委員	私は専門ではないのでよくわからないが、お金をかけたり、工夫をすれば、今以上にごみを劇的に減らすことはできるものなのか。
事務局（廃棄物企画課長）	最終的には市民や事業者の方々の分別が基本になるので、そこが一番のポイントだと思う。
議長（永幡部会長）	もちろん分別も大事だと思うが、そもそも容器をどうするのかといった問題も大きいと思う。今度、消費税率が変わり、食べ物はお店で食べるより持ち帰ったほうが安くなるため、いろいろな企業がお弁当などの持ち帰りに力を入れていると報道されている。恐らく多くの場合がプラスチック容器を使ってしまい、お店で食べるよりもごみが増えてしまうことになると思う。例えば仙台では、環境に優しく、食べ物はお店で、洗って使えるお皿で食べましょう、というようなことが、環境プランの中で打ち出せるとよいと思う。
事務局（環境部長）	環境プランの中でどこまで書き込んでいくのかについては、今後ご相談させていただきたいが、先ほどお話があった仙台らしい暮らし方ということで考えると、例えば、お店で食べてごみを出さないのが杜の都のスタイルというふうに発信できれば、仙台に住んでいる人も環境に優しい暮らし方が実感できるし、国際学会等で来仙する海外の方も「仙台は東京と違って素敵だね」というのが見えて、仙台らしさや、国際的にも先進的というところにつながってくると思う。また、中静委員から「成長」についてのお話があったが、そういう杜の都らしいスタイルができてくると、市民一人ひとりの心の成長や、まちの成長、まち全体の品格にもつながってくると思う。冒頭お話があ

	<p>ったとおり、市民アンケートの結果でも、将来望む都市像として「みんなが環境のことを考えて行動するまち」という回答が多かったので、そのようなスタイルをつくれるチャンスとも思っている。</p>
中静透委員	<p>生ごみについてはどうなっているのか。南三陸では、生ごみを回収して、バイオマスエネルギーで使っている。残りも肥料にして農家に配っているが、仙台市ではどうか。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>仙台市では、給食センターの生ごみや残渣物、市有施設からの剪定枝等については堆肥化して、「杜のめぐみ」という肥料として市民に配布している。また、地域における生ごみの堆肥化を推進する取り組みや、最近、話題となっている食品ロス削減に向けた取り組みも行っている。</p>
議長（永幡部会長）	<p>ごみ自体をなるべく出さないという点については、プランの中にしっかり書き込んでおいたほうがよいと思う。</p> <p>これまでの話を整理すると、仙台らしさであったり、みんなが環境のことを考えて行動することが一番大事だという話があった。仙台らしさについては、都市部と周辺地域をどうつなぐのか、それは自然共生やエネルギーの循環にもつながるという話や、仙台らしい快適な暮らしを考えることも1つの論点ではないかという話があった。また、資源循環都市づくりにおいては、そもそもごみをつくらないような生活スタイルを考えれば、仙台のスタイルとして発信できるのではないかという意見もあった。</p> <p>少し欠けているかなと思うのは、仙台といってもいろいろな地域があるので、それぞれの地域の特性について考えてもよいと思う。里地里山の話は少し出てきたが、沿岸部の方はあまり話がなかった。市街地についても、仙台らしい中心部のあり方というものがあると思うが、いかがか。</p>
中静透委員	<p>やはり定禅寺通が素晴らしい。広い道に街路樹があって、真ん中にスペースがあり、ジャズフェスティバルをはじめ、いろいろなイベントで利用されており、非常にユニークなところだと思う。</p> <p>今後、定禅寺通をどうしていくのか、ほかのところにも同じようなものをつくるのか、あるいはもう少し別なものにしていくのか、というところが大きな話だと思う。</p>
青木ユカリ委員	<p>定禅寺通については、仙台市が活性化の事業に取り組んでいるし、定禅寺通の空間でイベントが開催され、周辺の事業者の方々が軒先を開いて地域の方々が買い物を楽しむことができるような仕掛けが行われている。また、街中の回遊性の向上や、公園などの公共のスペースの活用といった取り組みも行われているので、情報の発信や共有を進めて、地域の方や専門家と連携しながら、現在の仕組みを活用していけるとよいと思う。</p>
中静透委員	<p>環境プランとはあまり関係ないかもしれないが、市街地の緑の課題として</p>

	<p>は、仙台駅東口の街路樹が貧弱なことである。もう一つは、音楽ホールの話で、例えば、青葉山公園も、市民の意見を踏まえてやっと構想が決まった後に、音楽ホールの話が持ち上がってきた。最初から、音楽ホールを組み込んだ青葉山公園づくりを検討することもできたのではないかと思う。そういうところに全体の方針のなさを感じており、建設局や環境局、文化観光局も含めて、庁内横断的にやらないといけないと思う。その辺まで考えた、都市づくりが必要だと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>やはりランドデザインが重要だというお話だと思う。</p> <p>また、定禅寺通があったからこそ、今の仙台があるということを私達も認識しなければならないし、仙台らしさという話とつなげて考えると、そこが活用され、また、そこをステージとして、市民だけではなく、外からも人がやってくる、人の循環ができていくということが財産だと思う。また、エネルギーや食料の循環といった話もあったが、次期環境プランでは、循環がベースとなって、それが持続可能性につながっていくという話になるのかもしれないと感じた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>今の議論を聞いていると、定禅寺通の緑のあり方は、仙台市中心部における杜の都のあり方の一つの理想像として捉えられていると感じた。それが定禅寺通だけでよいのかということが次の課題としてあり、それが表れているのが、仙台駅東口ということだと思う。</p> <p>その意味では、「杜の恵みを活かした」というキーワードは、おそらく定禅寺通のような場所がまち全体に展開されているような将来像が描かれていてもよいのかもしれない。</p>
事務局（環境部長）	<p>定禅寺通と同じものがよいのか、例えば、樹木ではなく、グリーンビルディングなど違う形がよいのかなど、いろいろと考えられると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>西側の方はいかがか。</p>
中静透委員	<p>森林環境税・森林譲与税が始まって、人口や森林面積から考えると、県内では仙台市に一番お金が配分されることになると思う。それをどう使うかということも、しっかりと考えていかないといけない。林業はなかなか産業として自立するのは難しいが、森林環境税もうまく使いながら、どう進めていくのかを考えることが大事だと思う。農林部と連携して、そのための方針を環境プランの中で打ち出していただければと思う。</p>
風間聡委員	<p>現在、環境アセスメント手続きを実施している案件では、山林の管理が行き届かなくて儲からないから、伐採して太陽光パネルを設置するという事業がある。再生可能エネルギーを推進するのか、経済的な利益はないかもしれないけれども森林を維持すべきなのか、そういうことについて、環境プラン</p>

	の中で、市の姿勢を示した方がよいと思う。
中静透委員	それは私も賛成だ。再生可能エネルギーに関しては、地元資本でなければ認めないぐらいのことをやってもよいと思う。そうじゃないと地元にお金が落ちない。国が環境影響評価法に太陽光発電を追加した際の委員をやったが、国は1万キロワット以上をアセスにかけるという話になった。これは大体100ヘクタールに相当する。100ヘクタールの森林を切って太陽光パネルを置くというのは、土砂崩れや土壌流出も起きるし、環境的には考えられない。森林を伐採して太陽光パネルを置くことに関しては、相当規制をかけてもよいと思う。それでは、どこに太陽光パネルを置くかという、建物の屋根に設置するのがよいと思う。最近では、太陽光パネルの下で、農業をするというのもあり、そういういろいろなやり方はこれからどんどん出てくると思うので、そういうものを推奨していただければと思う。ヨーロッパの再生可能エネルギーは、買取価格が一律ではなく、環境に優しい方が高い。そういうシステムは今日本にはないので、本当はそうであるべきだと思う。
議長（永幡部会長）	緑の量をどれぐらい守るといような規制のかけ方もあるのかもしれない。
中静透委員	ゾーニングも大事だと思う。
議長（永幡部会長）	ゾーニングというのは、この地域は太陽光パネルの設置はある程度認めるが、逆にこの地域では認めないというやり方か。
中静透委員	防災上、危ないところもある。
事務局（環境部長）	防災上のみならず、生物多様性や希少種の保全という視点も考えられる。現行の制度もある程度そのような形にはなっている。そこを強めるのかどうかという話だと思うが、そのためにはどんな調査が必要で、私権をどれだけ制限する権利が我々にあるのかという話になっていくと思う。
風間聡委員	そこは頑張ってもよいのではないか。例えば仙台市は、市民一人あたりの都市公園面積がかなり多いし、森林面積の割合も大きい。これは結構ユニークなことだと思うので、減らさない、むしろ質を上げてくという方針を打ち出してもよいと思う。
青木ユカリ委員	参考資料2の市民アンケートの結果では、将来望む都市像として「水や空気がきれいで静かなまち」と回答した人も多い。森林や里山などの緑があるということが、この回答につながっていると思う。お城のようなシンボルはないが、市民にとっては、緑があるということ、杜の都のシンボルとして思い浮かべているのではないか。
議長（永幡部会長）	「今、仙台はどんなまちだと思うか」という問いに対しては、「豊かな自然が活かされたまち」という回答が多いので、青木委員がおっしゃったようなことを市民が感じていると思う。仙台市が持っている魅力として、これを活か

	<p>していくということを強く打ち出していくことはよいと思う。</p> <p>また、先ほど「成長」をどう考えるのかという話がでたが、「成長」のあり方もすごく重要だと思う。みんなが環境のことを考えて行動するようになれば、まちとしても成長していると言える。例えば、今年、手持ちの扇風機が流行ったが、うちわを使えばエネルギーは使わない。何でもエネルギーを使って快適にしようというような考えはやはりまずいと思うし、そういったことをみんなで共有できれば「成長」と言えると思う。</p>
中静透委員	<p>環境は、どちらかというところだと経済成長を阻害するものと認識されてきたが、最近では、環境に配慮したことが経済的にもメリットがあるというふうになってきており、認証制度などの仕組みもどんどん出てきている。例えば金融業界におけるESG投資はかなり影響が大きい。そのような仕組みをどれぐらい環境プランに取り入れられるかというところだと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>今後、環境への配慮が経済的に評価されるような仕組みを検討していくというようなことを、環境プランの中にも書き込むことは可能なのか。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>環境プランに、これから検討することについて書き込むこと自体は問題ないと思う。例えば、答申をいただいた地球温暖化対策に関する条例についても、現行の環境プランの中に検討する旨の記載がある。次期プランも10年間の計画になるので、その間の状況に応じた仕組みを検討していくというようなことを記載することはありうらと思う。</p> <p>また、先ほどからの議論を伺っていて、環境は経済活動や快適な市民生活を阻害するものではなく、成長との好循環を生み出していくものだというところを、市民や事業者の皆さまにスタンダードなものとして浸透させていくことが重要だと感じた。そういったところもうまく打ち出していければと思う。</p> <p>まちの回遊性というお話もあったが、以前、市民の方から、仙台のまちは緑がきれいだから歩きたいが、歩いていて休むことができる、ちょっとしたベンチとか、憩いの場があるとよいというお話を伺った。回遊性を高めるためには、そのようなスポットを用意しておくことも大事なところかもしれない。</p>
議長（永幡部会長）	<p>地域別で言えば、沿岸部の話が出ていないが、もし何かご意見があればお願いしたい。</p>
風間聡委員	<p>沿岸部は、津波の被害を受けて復興工事が続いていたため、なかなか市民がアクセスしづらかったが、少しずつ利用できるようになってきた。以前は立派な海岸林があって、オオタカがいるというような良好な環境があった。今後、そういう環境を目指していくというような視点があればよいと思う。</p>
中静透委員	<p>東部地域の水田は、市街地のヒートアイランドを防止する効果も大きい。そういうところをもっと評価してもよいと思う。今後、農業人口が減っていくと、水田が太陽パネルに置き換わるようなことも想定されるので、環境プ</p>

	ランの中で、どういうふうにかえるのかある程度方針を示しておくべきだと思う。
議長（永幡部会長）	それぞれの地域の環境特性を整理し、そのうちのどこを特に残したいのか、未来に向けてどういう形にしていきたいのか、そのために具体的に何をやっていくのか、というようなところが、環境プランに書き込んであるとよいと思う。
事務局（環境部長）	今回の検討部会では、お話のあった市街地、西部の里地里山、東部の沿岸部の3つのエリアについて、それぞれの環境の特徴をお示し、それをどう計画に結びつけていくのかというような議論ができればと考えている。
議長（永幡部会長）	環境都市像に関しては、だいたい意見が出尽くしたか。 本日は、総合計画審議会の資料を追加で配布いただいたので、少し説明をお願いしたい。
事務局	<p>総合計画は、環境プランと同様に、計画期間が2020年度末までとなっており、現在、見直しの議論が進められている。昨年10月に総合計画審議会での議論がスタートし、これまで6回開催された。具体的には、お手元の資料のとおり「都市像とまちづくりを進める上で大切にしたい価値観、重点的な取り組みの視点」について議論が行われ、本年7月に、一旦これまでの議論がとりまとめられた。</p> <p>全体的な話としては、これまでのような足し算の計画ではなく、掛け算の計画にしたいということで、資料の左側に仙台らしさ、仙台の強みとして示された、「環境」、「共生」、「学び」、「活力」、この4つの都市個性を掛け合わせていくという考え方となっている。そこに、挑戦、チャレンジがキーワードとして加わり、新たな杜の都を目指していこうというのが大きな方向性である。</p> <p>都市個性の一つとして挙げられている「環境」については、世界で闘っていく上で、仙台の一つの大きな武器になるというようなご意見もあった。また、具体の中身の部分については、まだまだこれからの議論だが、自然環境を楽しみながら活用していくことが重要だというようなご意見や、地球温暖化対策が世界的に喫緊の課題となっている中で、将来に向けて脱炭素社会を目指すことを打ち出していくのはいいことだというようなご意見が出された。</p>
議長（永幡部会長）	資料の脱炭素社会のところは、消費エネルギー削減とあるので、環境プランのほうでも積極的に盛り込んでも問題はなさそうだ。
事務局（環境部長）	総合計画の議論の中でも、杜の都や、環境がキーワードとして出ているので、環境プランの中でも意識していければと思うし、逆に、環境プランの議論を、総合計画の方にうまくぶつけていければと思う。
議長（永幡部会長）	それでは、目指す環境都市像についての議論は一旦ここまでとする。

会長)	次に、行政、市民、事業者など、さまざまなステークホルダーが具体的に どうということに取り組んでいくべきかについての議論に移りたいと思う。皆 さまからご意見等をお願いする。
中静透委員	行政である仙台市には、ぜひ率先して環境配慮に取り組んでもらいたい。 例えば、再生可能エネルギーしか使わないとか、ごみをこれだけ減らすとか、 市内の事業者の中で、行政である仙台市がトップであるべきだと思う。そう しないと、市民やほかの事業者に対して説得力がない。新しい建物を建てる 時には、徹底的な省エネに加えて、太陽光パネルも張りつけられるところに 張りつけて、エネルギーゼロ、二酸化炭素排出量ゼロの庁舎を目指すという ように先端を行かないと、だれもついてきてくれないと思う。
事務局（環境 部長）	今も頑張っている部分はあるが、おっしゃられたような先進的 な取り組みとしては、本庁舎の建て替えが大きなチャンスだと考えている。
中静透委員	本庁舎だけではなく、例えば改修時もすべてそういうふうに取り組んでも らえるとよいと思う。 ステークホルダーという、どこまでを考えるのか。
事務局（環境 部長）	仙台らしさという点では、本市は学都と呼ばれるように、大学との連携と いうのも大きいと思う。現在も審議会です専門的な知見をもとにご意見等を いただいているが、先端的な技術のようところで、新しい連携のあり方もあ るのかもしれない。ステークホルダーとしての大学の役割も大きいと考える。
中静透委員	実は大学はすごく環境に負荷をかけていて、実験排水は環境負荷が大きい し、エネルギー消費も大きい。こうした問題に大学としてどう取り組んでい くのかも重要だと思う。再生可能エネルギー100%を宣言した大学もあるの で、どこまでできるかはわからないが、仙台市から働きかけるというのもよ いのではないかな。
風間聡委員	東大は、すごいお金をかけてすべてLEDにした。東北大学はそこまで できていないが、そういうことをどこかに言ってもらいたいというのは大事だと思 う。市役所もやるから、大学ぜひやってほしいというような話はよいと思う。 また、仙台市環境局と東北大学の環境科学研究科は、協定に基づいて連携・ 協力してさまざまなことに取り組んでいるので、そういう枠組みを活用して もよいと思う。例えば、たまきさんサロンの出張所をつくって啓発活動や環 境教育をすとか、市役所でインターンを引き受けていただいて、その際に 学生にも環境教育を受けさせて、しっかりと身に付けてもらうというような やり方もあると思った。
中静透委員	私が東北大にいたときに、仙台市にすごく貢献できたなと思ったことが、 震災後のごみ処理である。あれを総括して、広くアピールしてもよいと思う。
事務局（環境	それもある意味仙台らしさだと思う。これから温暖化によって世界的に水

部長)	害が増えて、その後のごみ処理が課題になることも想定されるので、そういったノウハウが国際貢献にもつながるかもしれない。
議長（永幡部会長）	あとは事業者や市民についてはどうか。
中静透委員	市民が環境配慮の認証を受けた商品をどれくらい買っているのか、といった統計データはあるのか。
事務局	細かいデータはないが、第1回検討部会の資料2-1のスライド45、46に、日常生活における環境配慮行動の実践状況についての市民アンケートの結果をお示ししており、こちらの16番の項目「エコラベルがついた商品や環境に優しい原材料を使用した製品を選んで買うか」という問いについて、「常にしている」と「できるだけしている」と回答した人の割合は、10年前と比べて増加しており、意識が高まっていると考えられる。
中静透委員	以前、イオンの方と話したときに、イオンとしても熱心に取り組んでいるが、消費者が買ってくれないと、なかなかそういうエコラベルの商品に置き替えることは難しいとおっしゃっていた。市民の意識が高いか低いかで相当違うということだと思う。行政が市民の意識を高めるという取り組みはあると思うが、ほかに何かいい方法はないのか。
青木ユカリ委員	一つは情報が大切で、知らないということが結構あると思う。今は、SNS等で簡単に情報が得られるが、一方で情報の信頼性という問題もある。
風間聡委員	先ほど人の成長という話があったが、アメリカの西海岸はその辺の意識がすごく高く、値段が高くてオーガニックのものを買う。なぜ買うのかと話を聞いたら、体にいいからというよりは、どちらかというファッションで買っている。日本でも、最初ペットボトルが出てきたときに、なぜ水道水を飲まないのかと思ったが、あっという間にこうなってしまった。ファッションみたいな仕掛けをしていくというのも大事だと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	それはすごく大事なことだと思う。やはり理屈で説明してもなかなか行動にはつながらない。それよりは、クールだよ、素敵だよ、というふうに、感性に訴えかけた方が効果的だと思う。 その点、発信元も重要で、行政が発信する場合にも、それが素敵だと思ってもらえるような発信の仕方というのは重要だと思う。
中静透委員	私が所属する総合地球環境研究所で、消費者が商品を買うときに、その商品がどれだけ環境負荷をかけているのかがわかるようにするという研究プロジェクトがある。例えばスマホで商品を写すと、生物多様性にどれだけ負荷をかけていて、二酸化炭素はどれくらい排出したかといった情報が、ぱっと出るようにしようというものである。
議長（永幡部会長）	市民一人一人は環境になるべく負荷のないものを選び取れるようにする、

会長)	一方事業者は、環境にどれだけ負荷をかけているか、きちんと情報を公開するということが重要だと思う。
中静透委員	ESG投資が拡大して、企業が情報開示しないといけなくなっている。 また、事業者に関して、例えば、仙台市の調達基準として、環境に配慮した事業者を指定するとか、他の企業にもそういった基準をつくるように働きかけるといような取り組みもあると思う。
事務局（環境部長）	仙台市の率先行動につながる話だと思う。現在もグリーン購入に取り組んでいるが、それを強化して、特徴を出していくことも重要だと思う。 また、例えば、企業と連携して、環境に配慮された仙台らしいお土産品をつくれば、経済の活性化にもつながると思う。
中静透委員	ローカルな生産物に対して、仙台市がお墨付きを与えるというのもよいことだと思う。
議長（永幡部会長）	農業への支援も重要だと思う。農業は、環境保全の貢献も大きい。
中静透委員	実は宮城県は環境保全米の生産量が多い。あまり知られていないので、もっとアピールしてもよいと思う。
議長（永幡部会長）	前回、環境情報の集約と発信という話があったが、環境に配慮された生産物があるということを、市民が知って選びやすいようにするということが大事だと思う。
青木ユカリ委員	環境のことに限らず、市民が知っている、伝わっていると思いついていても、実は伝わっていないというのは割と多い。情報の出し方や伝え方をもう一回点検することも必要だと思う。うもれている仙台の資源や情報を、リニューアルしてうまく見せ直すことができるとよいと思う。 何かきっかけがあれば、やってみようという人は結構いると思うので、たまきさんサロンだけではなく、沿岸部の方に新しくできた拠点でもよいので、多くの人たちが気軽に参加できるように、入り口を増やしてあげると行動が広がっていくと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	行政にとって、感性に訴えかけるような情報発信はどちらかというと苦手な分野だが、環境認証などの客観的な裏づけがある情報に関して、行政が出した場合は、市民等にとってある程度信頼度が高いという部分はあると思う。そういったところを考えると、効果的に情報を発信していくことが重要だと思った。
中静透委員	地元の小さい生産者が認証を取るの結構ハードル高いが、支援する制度はあるのか。もしないのであれば、そういうこともやればよいと思う。
事務局（環境部長）	支援する制度は経済局がもっているかもしれない。環境に関する認証制度もいろいろあると思うので、認証制度について情報が集約されているような

	<p>サイトがあるだけでも、大分違うかもしれない。</p>
中静透委員	<p>今は、建築物に関する認証もいろいろとある。そうした認証をとることを推奨したり、支援するというようなことを考えてもらえるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>環境に対する取り組み方が分からないので行動ができないという人が圧倒的に多いと思う。そのためにも、環境プランの中で、市民、事業者などステークホルダー別に行動メニューのようなものを提示して、まずは第一歩としてこれから取り組んでみましょう、というような仕掛けがあるとよいのかもしれない。</p>
事務局	<p>現行のプランにおいても、主体別に期待される役割や環境配慮行動の指針を記載している。そうしたところを、ご意見を踏まえながら、見直していければと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>おそらく今のままで「ああ、なるほどね」という話で終わってしまうので、メリットが感じられるような記載も盛り込めるとよいかもしれない。</p>
議長（永幡部会長）	<p>環境に配慮した行動をすると、メリットにつながるということを実感できるような仕組みにしておかないと絵に描いた餅になってしまう。行動しないと、損してしまうぐらいにみんなが思えるような仕掛けがあるとよい。</p>
事務局（環境部長）	<p>はじめはメリットがあって、そのうち、それがなくても当たり前のように行動する、そのように促していくような環境プランにできたらと思う。</p>
中静透委員	<p>私はCDPというNPOに関わっており、企業に対して、どれくらい二酸化炭素を排出しているのか、また、それに対してどういう対策を行っているのか、リスクをどれくらい把握しているのか、というアンケートを送って、企業からの回答をもとに、業種別に順位をつけて投資家などに開示している。</p> <p>こうした取り組みは、はじめは体力のある大企業じゃないとできなかったが、今は、サプライチェーンをどんどんさかのぼって下請の業者も含めて評価している。そのため、本当に小さい事業者でも取り組んでいるところもあるので、仙台市役所でも、そういった取り組みができると思う。そして、中小の企業に対して、「おたくのおかげでうちの順位が上がっている」というような、モチベーションを上げる働きかけができると思う。</p>
青木ユカリ委員	<p>仙台市の協働によるまちづくりの推進に関する条例には、「自立」、「連携」、「創発」というキーワードがある。このうち「創発」はなかなか難しいところがあるが、環境の切り口だといろいろなチャンスがあると思う。様々なステークホルダーが、一つのテーブルで話し合い、学び合いながら何かを生み出していく、そこには途中からでも参加できる、というような仕組みがあるとよいと思う。例えば市民局でやっている市民協働事業提案制度などの既存のものを活かして、単年では難しいと思うので、少し長いスパンでの取り組みとして、そういったものがあるとよいと思った。</p>

事務局（環境部長）	環境の分野は広く、多様なステークホルダーがいると思うので、それらの方々が交わる場をつくるという視点も大切だと思う。
青木ユカリ委員	私は、市役所本庁舎建替の委員会にも参加させていただいているが、そこでは「共創のプラットフォームづくり」というキーワードが出ており、低層階の部分に、そうした機能をもたせるような話も出ている。もしかしたら、そうしたところにのっかれるかもしれない。また、F E E Lなどの枠組みもあるので、もう少しそこに参画する人を増やすように強化するというような視点があってもよいと思う。
中静透委員	今の話と少し関連するが、CDPのアンケートでは、二酸化炭素の排出量等について、会社の環境部門の人だけではなく、社長も把握しているかという問いがある。トップの意思決定をできるような人たちが関わっているかどうかで、インセンティブがつけられるとよいと思う。
風間聡委員	CDPには、市役所は参加できないのか。
中静透委員	自治体版もある。
議長（永幡部会長）	<p>仙台市役所の役割として、そういう認証を積極的に取得するという環境プランに書き込んでおいてもよいのかもしれない。</p> <p>あとは、快適環境都市づくりには、企業にも積極的に関わってほしい。例えば騒音を減らそうと思ったら、古い車を減らすだけでもずいぶん違う。</p>
事務局（環境部長）	確かに、技術が解決する部分はこれからますます出てくると思う。そこにはマーケットも生まれてくる。例えば仙台市も積極的に電気自動車を導入しているが、規模が大きい事業者の方々にも促し、そこに市民がついてくれば、それが3倍にも4倍に広がっていく可能性がある。そういう市役所の率先行動について、環境プランの中にも入れていきたい。
中静透委員	以前、東北大学の農学部を売却した際、多くの樹木が伐採された。購入したイオンは、緑地の保全等に熱心な企業だが、東北大が売却する際に条件として緑地保全を付けていなかったということもあったようだ。条例で規制というのは難しいと思うが、プランの中で、開発に対する方針をきっちり示しておくことが重要だと思う。
事務局（環境部長）	先ほど太陽光パネルの話もあったが、開発に対する本市のスタンスは考えていきたいと思う。
中静透委員	もう一つは、東京の丸の内などでは、今、緑化が進んでいる。緑化したほうが、賃料が高くてもテナントが入るなど効果が大きい。マンションでも、緑化されているとよく売れるとか、資産価値が下がらないと言われており、東京周辺ではディベロッパーが緑地を熱心につくっている。また、そういうものへの認証制度も出てきているので、そこをアピールしていくというのは重要だと思う。

事務局（参事兼環境企画課長）	<p>現行の環境プランにも、開発事業に関して、事業の企画、計画、実施段階の各段階における環境配慮の指針を示している。プランを策定してから年月が過ぎていたので、この間の状況の変化に応じて見直していければと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>私が専門としているサウンドスケープという分野では、市民が大事だと思っている音をどうやったら残すことができるのかということについて、ヨーロッパで随分議論が進んでいる。仙台市の状況を振り返ってみると、私にとってすごく象徴的だった出来事が、環境影響評価の事後調査で、工事後に青葉山のカッコウがいなくなったのにもかかわらず、環境に対する大きな影響はなかったと評価されていたことである。おそらく、より重要な指標種については工事の実施前後で変わらなかったためと思われるが、カッコウは仙台市の鳥である。生物学上の重要性だけではなく、地元の人たちにとって優先順位が高いものがきちんと残せるような仕組みがあるとよいと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>非常に重要なお話だと思う。市民が大事にしているものは何かという議論も必要だと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>一般的な話でというよりは、一つ一つの開発行為に対して、この地域で本当に何を残したいのかということを中心に聞いた上で、環境アセスメントをするというような仕組みにすればよいのではないかなと思う。そうすれば、先ほどの太陽光パネルの話でも、かなり対応できる部分があると思う。</p>
中静透委員	<p>一応、環境アセスメントでは、人と自然との触れ合いの場という項目があるが、その辺の市としての考え方が大事だと思う。</p>
風間聡委員	<p>環境アセスメントでは、結局、事業を中止させることはできないが、そこで出された意見には真摯に取り組んでもらう、最大限の努力をしてもらうというような方針が環境プランに盛り込まれていると、いろいろな問題が結構解決されるのではないかな。</p> <p>また、他の環境アセスメントの案件では、水田を商業地や業務用地に改変するという事業について、もとの水田環境に配慮して調整池を工夫できないかと意見したが、事業者からは、防災的な機能を持たせるので難しいとの回答があった。そのとおりかもしれないが、もともとそこには水田という水辺環境があったわけで、しかも周りの人もそういうものを望んでいるのであれば、ぜひそのように対応してもらいたかった。そういうことも、環境プランに書いてあるのでぜひやりましようと言えると、すごく素晴らしいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>市が大切にしている価値観を、環境プランの中に盛り込み、それを拠り所にするということだと思う。</p>
中静透委員	<p>グリーンインフラの考え方は、ぜひ環境プランに盛り込んでもらいたい。</p>
事務局（環境	<p>グリーンインフラは、生活や防災など様々な分野と関連があり、また、仙</p>

部長)	台らしさも出せる部分だと思うので、おそらく今回の環境プランの一つのキーワードになってくると思う。
中静透委員	あとは、環境教育の話が少し抜けていたかなと思う。具体的なアイデアがあるわけではないが、やはり子どものころの教育というのはすごく大事だと考えていて、例えば、小・中学校のカリキュラムの中にどれぐらい環境が入っているのか、また、グローバルな環境問題だけではなく、仙台特有の環境についても学べるのか、というところを確認してもらって、ぜひその辺りはやっていただきたいと思う。
事務局（環境共生課長）	<p>たまきさんサロンでも小・中学校を対象とした体験学習に取り組んでおり、今、大変人気がある。また、東北大学とも連携しながら、最先端の環境についても発信しており、サロンの子供の利用が増えている中で、今後も取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>さらに、小学校の理科の副読本で「仙台の自然」というものがあるが、平成30年度からは、教育局の先生にもいろいろアドバイスいただきながら、環境局の方で生物多様性についてのページを追加させてもらった。この副読本は4～6年生の授業で活用されており、子供たちに仙台の自然や環境について学んでもらうことは非常に大事だと考えている。</p>
青木ユカリ委員	小学校では、結構カリキュラムに組み込まれているが、中学校では減ってしまうと話を聞いたことがある。
事務局（参事兼環境企画課長）	現行の環境プランに基づき、市内の全ての小・中学校では、総合的な学習時間を使って「杜の都のエコ・スクール」という活動に取り組んでいる。取り組みの内容は、学校ごとに選べるようになっており、花壇づくりや、エコキャップ・牛乳パックの回収など、各学校の事情に応じて取り組んでいる。
議長（永幡部会長）	学校教育でできることもあれば、たまきさんサロンでできることもあると思う。環境教育をきちんとしないことには、一人ひとりの行動に移らないと思うので、今後、環境を支える人づくりのところで具体的な議論をしていきたい。
事務局（参事兼環境企画課長）	今回、参考資料としてお示した市民アンケートの結果でも、人づくりについての関心が高く、今後、どのように考えていくのかが重要だと考えている。先ほどご紹介した現在の環境プランの取り組みのように、ベースの部分として小・中学校での取り組みがあり、さらに興味・関心を持った人達に向けては、たまきさんサロンや、環境団体の出前講座等を使っていただくというように、何層かに分けた取り組みを考えてもよいと思う。人づくりは、いろいろな施策を推進していく上での体制にも関連してくるので、その辺も関連づけながら考える必要がある。
事務局（環境	先ほどの情報の一元化にも関わってくる話だと思う。環境学習としてこう

部長)	いうメニューがあるという情報が集約されたポータルサイトのようなものがあるとよいと思った。
議長（永幡部会長）	それはぜひ実現していただきたい。
中静透委員	愛知県では、環境大学という取り組みを行っており、いろいろな分野の専門家が講師を務め、行政や企業の担当者が参加している。授業を受けるだけでなく、1年かけてワークショップをやって、環境問題に対してどういうことができるのかを参加者に考えてもらう。そういう取り組みも参考になると思う。
風間聡委員	そういうところへの参加についても、認証を出してもよいのではないか。
中静透委員	もう一点、青木委員にお伺いしたいが、NPOが抱えている問題点や、行政にもっとこういうことを支援してもらえると進むというようなことがあれば教えてもらいたい。
青木ユカリ委員	例えば、世代交代の問題や、活動への参加者を増やすといった、人材の確保の課題は一つあると思う。 また、環境関係であれば、ボランティアでやっているところが多いので、資金調達課題というところもあると思う。逆に言うと、もう少し仕事として取り組めるとよいと思う部分もある。
中静透委員	環境分野ではNPOの役割が大きいと思っており、NPOの活動をどうやって活性化させていくのかについても、環境プランの中に盛り込んでおいたほうがよいと思う。
議長（永幡部会長）	先ほど行政、市民、事業者などのステークホルダーという言い方をしたが、次からは、きちんとNPOについても名前を挙げて、議論を進めたいと思う。 それでは、この件は以上としたいと思う。
議長（永幡部会長）	次に、議事（2）その他だが、本日の部会を通してのご質問、ご意見などがあればお願いします。
中静透委員	本日は、事務局としてどの部局の方が出席されているのか。例えば、都市計画や経済の部局の方もいらっしゃるとよいと思った。
事務局（環境部長）	なるべく声掛けはしたいと思う。
事務局	先ほど総合計画についてご説明したが、庁内の多くの計画が2020年度末までの計画期間となっており、現在、計画改定に向けて、様々な部署で検討が進められている。そのため、日ごろから他部局の担当者とは意見交換や情報共有に努めており、本検討部会での議論の状況についても、適宜情報共有しながら進めていきたいと考えている。
中静透委員	国の委員会にも多く出席しているが、単独の部署でつくった計画は余りう

	<p>まくいかない。いろいろな部局がいろいろな計画をつくるので、整合性や連携というものがきちんとできていないと、いい計画にならないと思うので、ぜひその辺はよろしく願いたい。</p>
議長（永幡部会長）	<p>今日は話がでなかったが、SDGsを考えたときにも、環境のみならず、さまざまな分野と整合を図っていく必要がある。</p> <p>それでは、議事については以上とするが、事務局から連絡事項はあるか。</p>
事務局	<p>事務局から3点、ご連絡申し上げます。</p> <p>1点目、今後の日程について、次回の検討部会は11月8日（金）9時からを予定している。会議の開催案内は後日改めてお送りする。</p> <p>2点目は、第1回検討部会でもご説明したとおり、環境プラン改定に向けた市民参画の取り組みとして、市民ワークショップの開催を予定している。詳細については、後日ご案内するが、12月1日（日）の午後を予定しているので、ご参加をお願いします。</p> <p>3点目は、皆様のお手元に第1回検討部会の資料をまとめたファイルを用意しているが、こちらは置いて帰っていただければ、本日の第2回検討部会の資料をファイリングして、次回もご準備させていただく。</p>
議長（永幡部会長）	<p>以上で本日の検討部会の議事を終了する。</p> <p>審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p>

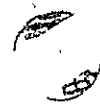
令和元年11月1日

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 部会長

氏名

永幡 鞆



仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 委員

氏名

風間 聡



